

死刑について

C000000 安倍愛

はじめに

授業で μ 国で死刑制度が廃止された経緯について色々知って、私の住む日本の死刑制度について考えてみることにした。授業を聞くまでは私刑について真面目に考えることはありませんでした。死刑はあって当然というか、そういう間隔であったのだ。しかし死刑が廃止された国があるとか、世界的には死刑廃止国の方が多いという話を聞いて、今まで自分が自明視してきたことが大きく心が打ち震えるように感じたのだ。

特に授業で μ 国の人たちが何を考えて死刑を廃止したのかが分かって、日本でも死刑が廃止される可能性があるとするれば、ちょっと真剣に死刑制度について考えなければならないと思い知らされたのである。

それでこのレポートを書く前に死刑について少し調べてみた。Wikiによると死刑には、世界各国古今東西で様々な歴史と様式があった。[日本](#)では現在[絞首刑](#)で行われている。現在の多くの死刑存置国ではおおむね人命を奪った犯罪ないし国家反逆罪、および未遂罪に対しても死刑が適用されるが、一部犯罪に対する刑罰を厳罰化している国々では、生命・身体の脅威になる犯罪（[麻薬](#)・[覚醒剤](#)などの使用、製造、[人身売買](#)など）や、生命を奪わない犯罪（汚職、通貨の偽造、密輸など）などにも死刑または[終身刑](#)が適用される場合がある。

死刑について知らないことばかりだということに気づかされて、もっと色々調べを進めることの重要性を鑑み、授業で μ 国の話を聞いたので、それに沿って議論を進めていく。

μ 国の話

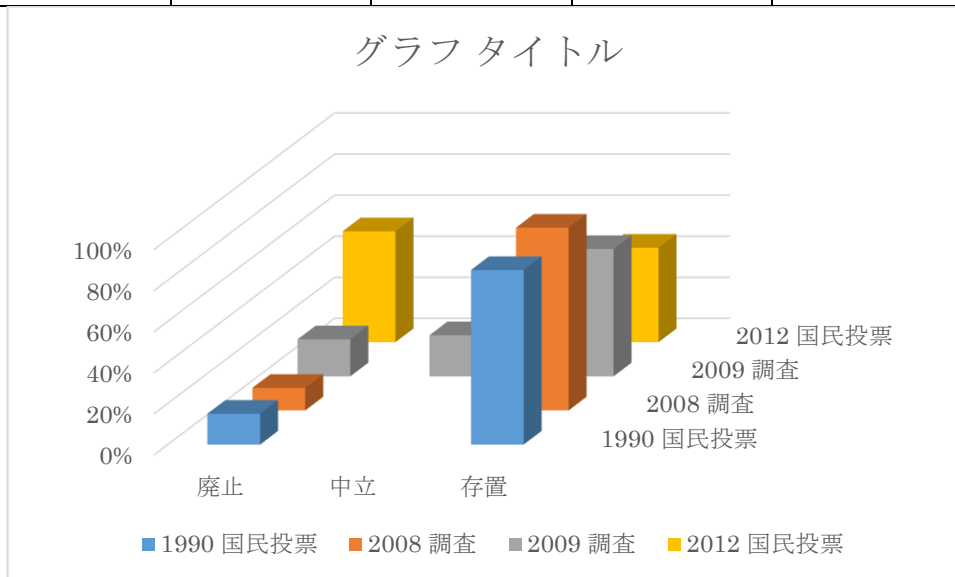
このレポートのテーマになっている μ 国では無罪の人が死刑執行して、それが後で分かったということがあったそうだ。悪いことしていないのに死刑になるなんてその人はとても可哀想だと思った。私だったら耐えられないと思うのだ。そういうことがあるのなら死刑はやはりやめた方が良くないかと思った。冤罪は日本でもあるようだけれども、死刑にさえならなければ、損害賠償とか色々被害を回復できることもあるんじゃないかと思うのだけれども、死刑になって死んでしまえばどうしようもないと思う。

それで死刑は他の刑罰とは全然違う意味があるのかも知れないなと思った。でも日本の世論の多数派は真逆で死刑賛成の意見が圧倒的多数派らしい。私のまわりでもみんなそうだと思う。深く話したことはないけれども、凶悪な事件の話を聞くと、犯人は死刑になって当然だとみんな思っていると思う。私もそうだ。殺人事件の被害者やその家族は本当に無念だろうと思うし、その人たちのことを思うと死刑以外に考えられないとおもう。よ

く遺族の方たちが死刑判決を希望して会見なさっているのを見ることがあるけれども、その人たちの前で死刑廃止を主張する勇気は私には到底保持していない。でも実際に問題なのは世界的には死刑がない国の方が多いというので、その国の人たちはどう考えているのか興味深い。そして国際人権 NOG のアムウェイ・インテルとかも日本が死刑を行っていることを批判されるらしい。でも自分が愛する家族が殺されても、絶対に死刑にされることはないというのは納得できるものなのだろうか。冤罪とかのことを考えると死刑はやばいかなと思うのだけれども、国民感情として死刑を廃止するのはとても難しいと思う。

それでμ国では最新の結果では死刑廃止派が 54%になったと聞いて、それ以前は日本と同じで一割ぐらいだったというので、なんでそんなに考え方が変化したのか不思議に思った。やっぱり実際に冤罪事件とかがあると意識が覚醒したりするのだろうか。かれらは今ある制度が今あるように維持されることを支持したのであって、死刑が廃止された後は、かれらは廃止されたその現状を支持したのだ。という文章を読んで、みんな自分の意見をしっかり持たず、人の意見に左右されるものなんだなと思った。

年		廃止	中立	存置
1990	国民投票	15%		85%
2008	調査	11%		89%
2009	調査	18%	20%	62%
2012	国民投票	54%		46%



それから 2009 年には死刑が執行される時の映像が流出する事件があった。その映像は死ぬまで死刑囚の人が苦しんでいる様子を捉えられていて、多くの人をショックの渦に叩き込んだという。死刑を廃止したいタカーシ首相がその映像流出を仕組んだという噂もあったとか。

そういうようなことがあると世論は死刑反対に動いたりするのかなと思ったけれども、実際にはそれほどでもなくて、2008 年の世論調査はその前とそれほど傾向が変わらなかったという。

あと 2009 年の調査だけは項目が変わったので結果がおかしなことになっていて、単純な比較は出来ない。いきなりこのときだけ中立という解答が出来たのでややこしいことになってしまっている。項目をコロコロ変えると比較が出来なくて面倒だと先生がおっしゃっていた。なんでもそれをゴリ押ししたのは総理大臣のタカーシ首相だということだ。タカーシ首相は前任で保守党のフジモン首相が汚職で辞めてしまった後に民主党が選挙に勝って、首相になった時にどうしても死刑廃止したくてそういうことをやったらしい。タカーシはそれほど死刑が嫌いだと言うことだ。タカーシはフランス留学経験もあるエリートらしいということで、死刑が廃止されたフランスにならって μ 国も死刑は廃止された方が良かった。

μ 国で死刑が廃止された時には実際には世論は死刑存続の人が多かったらしい。ではなぜ死刑が廃止されたかというとそのときの総理大臣だったタカーシさんという人が世論は無視して、議会だけで強引に死刑廃止が決められたのだそうだ。そのときの議会では 55% の議員が死刑廃止することに賛成をし、反対した人は 3 割 8 分で残りは棄権、ということで世論に反するけれども、議会では多数決で死刑廃止を決めた。国民投票をしなかったことでいっぱい批判されたけど、タカーシさんは気にせず、それで文句言う人を感情論だとやり返したらしい。そういうふうに他者から批判されても自分の主張を譲らないのは偉いと思った。タカーシ首相の言葉を紹介する。

死刑制度に対してわが国の国民の意識は感情的なものであり続けた。刑罰に対しては専門的な知見は不要であって、感情論で構わないとする考え方が議員たちをも支配していた。ハムラビ法典の応報刑の原理から怖ろしく進歩していない刑罰観がいまだに残り続けているのだ。様々な技術や制度は大幅に進化し、法律もそれに合わせて改正が重ねられたが、刑法だけは古い衣を着続けていた。

しかしそれは明確な誤りである。感情というものは確かに一定普遍性を持ちうる。そうであればこそ法は感情とは一定の独立性を持って運用されなければならない。刑法は国家が直接に人権に関与する法律である。被害者感情に根ざした国民感情は一定尊重されるべきことは当然であるが、それ以上に重要なものがあるのだ。

近代民主主義国家がもっとも重視すべき大原則とは人権尊重である。国家権力が人権を

毀損することは何よりあってはならず、私的領域での人権毀損に対しても国家は介入する義務を負うのだ。

人権概念こそは世界史の中で人類が手にした最高の発明品である。それだけにおろそかな扱いは許されない。人権は同情や哀れみと言った感情的なものとは全く異なったすぐれて社会的な概念である。それ故この人権という概念は徹頭徹尾専門的な知見でもって取り扱われなければならない。そして死刑制度は人権の根幹に関わる刑罰なのだ。

私は政治家になって以来、死刑制度は廃止されるべきであるという信念を持っていたが、それを実現するには相当の準備が必要である事は分かっていた。いずれ政治家生命をかけてこの問題に取り組むつもりであったが、それ以外になすべき課題は多数あった。

しかし 2009 年に発覚した冤罪事件は私に取り組むべき課題の優先順位を大きく変えさせた。死刑に処せられた者が冤罪であったと事実が私の中で途方もない焦りを持たせた。死刑は廃止されなければならないという信念は一層強固なものになった。しかしその事実を突きつけるだけで死刑廃止に国民は同意するだろうという私の見積もりは間違っていた。国民の何%がわが国が批准している国際人権規約の中身を知っているのだろうか？わが国の国民の人権意識は私が期待したものより遙かに低かった。

彼の主張はフランス帰りのエリート主義的だと批判されたらしい。エリート主義というのは一般大衆を小馬鹿にするような感じの考え方です。この文章の言い回しが小難しく私にもよく分からないし、ちょっとムカついたのもあって、なるほどと思った。でも逆になんかかっこいいなとも思った。

一般の人たちの意見の通りに政策を決めるのを直接民主制的なアプローチと言うらしい。成員が、代表者（代議員）などを介さずに、所属する共同体の意思決定に直接参加し、その意思を反映させる政治制度または思想である。その真逆が構成員が選挙などの一定の方法で代表者を選出し、その代表者が議会などで決定を行うこと¹¹を間接民主制的なアプローチという。

μ 国の死刑廃止プロセスは間接民主制的なアプローチだ。タカーシは間接民主制的なアプローチで死刑を廃止したから、手続き上は民主主義に反しているわけではなかったということだ。

だからちょっと強引だけど、それはそれでよかった。

みんなが思っていたのと違うことを強引にやっても、結局最終的にはみんなの意見がそうなったということなので、結局タカーシがやったことは間違いではなかったのだろうと思った。ただ日本で同じことをやったら大変なことになると思う。絶対炎上する。ミヤネ屋とか凄い文句言うんじゃないかと思った。それはそれでしょうがないけど、ちょっとかわいそうだなとも思う。世論は移ろいが激しいので、それに合わせるのは大変だなあと思っている。

タカーシは総理大臣だからちょっと叩かれたぐらいではさほどめげたりはしなかったのだと思った。結果的にμ国は死刑廃止国になったのだ。国際人権規約も受理することが出来て一件落ち着いたのだった。

年	政権	死刑制度を巡る出来事
1945	保守党	死刑制度あり
1990	保守党ナカザー内閣	国民投票－「存置」
2008	民主党タカーシ内閣	死刑廃止に対する世論調査実施
2009	民主党タカーシ内閣	1963年に執行された死刑囚の無罪が確定
2009	民主党タカーシ内閣	死刑囚が絶命するまでの様子を録画した映像が流出
2009	民主党タカーシ内閣	死刑廃止を巡る世論調査（質問項目の改定）
2010	民主党タカーシ内閣	議会により死刑廃止（国民投票はなし）
2012	保守党フークム内閣	国民投票－「廃止」

以上、結局自分の意見はまともらなかったけど、みんなが死刑廃止した方が良く思うようになるのだったら、日本でも死刑は廃止しても良いと思う。でも被害者遺族とかは絶対に納得しないと思う。死刑に処せられた人が実は無実だったと分かったら、それはそれで大変だから終身刑でもいいんじゃないかなと私は思う。無期懲役だったら死ぬまで刑務所出られないし、無実だったらその時点で出られるし、お金で少しは償えると思う。とにかく死刑制度については色々考えなければいけないことがよく分かった。この授業をきっかけに死刑制度について考えられる機会を持てたのはとても有益なことであって、この授業を受けてよかったと思った。これからも死刑について色々考えていこうと思った。

参考文献

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%96%93%E6%8E%A5%E6%B0%91%E4%B8%BB%E4%B8%BB%E7%BE%A9>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%B4%E6%8E%A5%E6%B0%91%E4%B8%BB%E4%B8%BB%E7%BE%A9>

その他授業で配られたやつ